

連携だより

令和4年

6月号

令和4年6月1日発行

独立行政法人 国立病院機構 
呉医療センター・中国がんセンター
地域医療連携室

〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
TEL 0823-22-3816
FAX 0823-32-3070

URL <https://kure.hosp.go.jp>

理念

思いやりのあるやさしい誠実な医療を提供します

6月の花 ユリ



今月号のトピックス

- 科長就任挨拶..... 1
- 地域医療研修センター定期講演会..... 4
- TCSA勉強会..... 4
- 外来医師専門領域一覧表の訂正について..... 4

科長就任挨拶



脳神経内科科長
大下 智彦

この度、脳神経内科科長を拝命し、4月1日付にて広島大学病院より参りました大下智彦と申します。どうぞよろしくお願い致します。私自身の経歴ですが、広島市生まれで1994年（平成6年）に広島大学を卒業し、広島大学脳神経内科（第三内科）に入局いたしました。博士号、神経内科専門医取得後は倉敷中央病院、翠清会梶川病院、広島市立安佐市民病院、広島大学病院にて勤務し、脳卒中などの急性期神経疾患からパーキンソン病・認知症などに代表される神経変性疾患まで幅広く経験させていただきました。呉市・江田島市を中心とした地域の神経疾患診療の向上に少しでも貢献できるよう努めてまいりますので、お気軽にご相談いただけますと幸いです。

脳神経内科診療はこの10年の間にも大きく様変わりしております。一つは高齢化に伴う（神経疾患）患者数増加であり、もう一つは治療法の開発です。神経疾患、脳神経内科疾患は私が医学生の際には”わからない、治らない、あきらめない”（“三ない”）などといわれていましたが、近年治療手段が大幅に増え、その波は神経変性疾患にも及んできています。ご挨拶の場を借りまして、わたくしたちが扱っております主な疾患と最近の治療法について紹介致します（詳しくは当院ウェブサイトをご参照ください。<https://kure.hosp.go.jp/department/neurology/#anc04>）。

「脳卒中（300万人<推計患者数、以下同>）」 急性期脳梗塞におけるrt-PA（アルテプラゼ）の適応時間が4.5時間と延長し、発症時間不明の脳梗塞も頭部MRIの結果次第では適応となりました。また、主幹脳動脈閉塞に関しては24時間以内であればカテーテルによる血栓回収が考慮されるようになり、大幅な予後改善が期待できるようになりました。当院では脳神経外科と協働して一次脳卒中センターとしてこれらの治療を行っております。治療開始が早いほど転機良好であることが証明されていますので、疑い例でも早めにご相談ください。

「頭痛（3000万人）」 頭痛のうち、はたらき盛りの若年者に多い片頭痛は脳卒中の危険因子でもあります。日本には約800万人の患者さんがいます。2021年にCGRPという片頭痛惹起ペプチドとその受容体に対する抗体治療（1回/月または1回/3カ月の注射）が登場し、高い予防効果を示しています。また、本年には選択的セロトニン1F受容体作動薬も認可され、頭痛頓挫率の向上が期待されています。

「てんかん（100万人）」 子供の病気と考えられがちですが、近年は高齢発症のてんかんが増えています。高齢者てんかんはけいれんをきたさないことも多いので認知症などと誤診されていることもあります。副作用や薬物相互作用の少ない新規抗てんかん薬が主流となりつつあります。外科手術も考慮される難治例については広島大学てんかんセンターなどと連携をとっていきます。

「パーキンソン病（12万人）」 近年は高齢発症の方が増えてきており、患者数は増加の一途をたどっています。レム睡眠行動異常症や疼痛などの多様な非運動症状をきたすことが認知されてきました。貼付型ドパミン受容体作動薬、新規のドパミン分解酵素阻害薬（MOAB阻害薬・長時間型COMT阻害薬）、非ドパミン系薬剤（アデノシン A2A 受容体拮抗薬・ゾニサミド）など選択肢が増えています。脳深部刺激（DBS）に次ぐデバイス治療として、LCIG（レボドパカルビドパ経腸療法）やFUS（MRガイド下集束超音波治療）が登場し、適応がある場合はそれぞれの専門施設に紹介しています。

「認知症（600万人）」 アルツハイマー病についてはアミロイドに対する抗体治療が治験を終えて世界で初めてアメリカで認可されました。日本でも承認申請がなされています。PET検査・髄液アミロイド検査などの検査も普及はしつつありますが、保険未収載です。

「神経免疫疾患（2万人）」 多発性硬化症や視神経脊髄炎がその代表であり、免疫異常（神経炎症）による発作を繰り返す病態で、若年～中年の女性に多いです。この10年間でもっとも治療法が開発された領域であり、多発性硬化症は1種類→7種類、視神経脊髄炎1種類→3種類と治療薬が増えています。種類だけでなく、再発抑制効果が高い薬剤が増えて、就労や就学が維持できるようになりました。早期から強力な免疫療法を行うことがADLやQOLを保つうえで重要であることが示されており、治療介入のタイミングを遅らせないことが重要です。

「筋・末梢神経疾患」 遺伝子異常が主体の変性、炎症性（免疫異常）、中毒など様々な原因で筋肉および末梢神経は障害を受けます。近年の核酸医薬品の研究開発により、2020年に筋ジストロフィーの一部のタイプに対して初めての治療薬が登場しました。同じく神経難病である家族性アミロイドーシスや脊髄性筋萎縮症に対しても核酸医薬品による治療が開発されています。また、筋萎縮性側索硬化症（ALS）についてもエダラボン点滴が認められ、当院でも治療を行っています。筋・末梢神経疾患は免疫異常・炎症性のことも多く、一般に考えられているより治療可能になりつつあり、その分正確な病因診断が求められます。そのための検査としては神経伝導検査や筋生検・神経生検が必要になりますが、当科はスタッフに日本臨床神経生理学学会専門医、神経病理学会専門医を有しており、通常より詳細なレベルでの診断を可能としております。筋生検件数は広島県で最多であり、西日本全域から筋疾患患者をお受け入れしております。

その他の脳神経内科疾患についてもスタッフ一丸となって診療にあたっております。呉・江田島地域は高齢化率が高く、脳神経疾患の患者さんが増加しています。そのような地域の要請に応えられるよう全力で取り組んでまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



呼吸器外科科長
三村 剛史

この度、前副院長兼前科長 山下芳典先生のご退職に伴い、4月1日付にて呼吸器外科科長を拝命致しました三村と申します。どうぞよろしくお願い致します。

呼吸器外科は当院呼吸器センターの外科部門を担当しており、原発性肺癌や縦隔腫瘍を中心とした胸部の腫瘍に対する手術や、気胸などの良性疾患に対する手術など、心臓・大血管を除く胸部外科領域の手術を幅広く担当しています。現在、そのほとんどの手術で最新の映像機器である4K3D内視鏡システムを使用した胸腔鏡下手術（VATS）を導入しており（写真参照）、できるだけ体への負担を軽くした低侵襲手術を提供しています。年間200件前後の呼吸器外科手術、100件超の原発性肺癌手術を施行しており、地域の中核機関として高いレベルの医療を、地域の皆さまへ提供できるよう鋭意努めています。また日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）肺がん外科グループや西日本がん研究機構（WJOG）に参加しており、臨床試験への参加や、定期的な会議やセミナーへの出席により最新情報の収集に努めています。

呼吸器外科領域では、epoch-makingな臨床試験結果が本年4月に発表されました。当科からも複数例の症例登録を行ったJCOG0802 / WJOG4607L「肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除（区域切除）の第III 相試験」の結果がLancet 2022; 399: 1607-1617に報告されました。近年増加している肺野末梢の小型肺癌に対して、主要評価項目である5年全生存率において、新規治療である縮小手術（肺区域切除）が、従来の肺癌に対する標準治療であった肺葉切除を上回る驚きの結果でした（元々は非劣性試験でしたが、非劣性のみならず優越性も証明されました）。今後肺癌に対する標準治療としてガイドラインが変わる可能性を秘めており、死亡者数の最も多い癌腫である原発性肺癌において、今まで以上に肺機能温存手術を積極的に取り入れていく必要があると考えます。

当科では4K3D内視鏡システムによるVATSのみならず、肺実質を自由に切ることのできるマイクロ波メスを適用することにより、難易度が高く精巧な手技が要求される肺区域切除を、合併症少なく安全に行えることを報告してきました（The Annals of Thoracic Surgery 2020; 109: 1692-1699）。昨年度は手術件数において、肺区域切除例が肺葉切除例を上回っており、患者さんの病態にあわせた最適な術式を選択できていると考えます。我が国でも特に高齢化の進んでいる呉市において、肺癌に対する外科療法のニーズに応えるべく、病気の進行度や患者さんの臓器の機能（呼吸機能や心機能など）など個々の状態を総合的に判断し、手術適応となれば患者さんやご家族に親身になって提案させていただいています。

2020-21年はコロナ禍に伴う検診の控えが大きく影響したからか、肺癌手術症例数は2019年までに比べてやや減少しています。しかし我が国における肺癌発症数は年間12万人とも言われており、今後地域の先生方の施設における受診や検診などで指摘される事例が増えてくるのでは、と考えています。進行した状態で肺癌と診断されることが多くなることも予想され、手術適応となったとしても、やや難しい手術（気管支・血管形成術や術前補助化学放射線療法後の手術など）を選択せざるを得ない患者さんも増えるかもしれません。手術により治癒が期待される患者さんには積極的に提案させていただき、全力で診療にあたってまいりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。



4K3D内視鏡システムを使用した胸腔鏡下手術の手術室風景です。

地域医療研修センター定期講演会（2022/06/15）抄録

日時 2022年 **6月15日(水)** 19:00～20:00



演者

リウマチ・
膠原病科科長
徳永 忠浩

場所 管理棟4階 地域医療研修センター 第1・2

演題 「関節リウマチについて」

関節リウマチは、代表的な全身性自己免疫性疾患の一つであり、関節の滑膜炎により骨・軟骨の破壊が引き起こされて関節変形・生活機能低下をきたします。これまで“身近な難病”と呼ばれてきましたが、1990年代以降の治療薬の革新的進歩により、多くの患者が“寛解”を達成できるまでに治療成績は改善しました。近年劇的な変化を遂げた関節リウマチ診療について講演させていただきます。

TCSA勉強会

※TCSAとは
Total Care Support Associationの略です

5月16日、外科医長 鈴木崇久先生から「栄養療法について」ご講演いただきました。

- 栄養管理の主役はベッドサイドで一番身近にいる看護師さんである。
- 誤嚥性肺炎の予防は食前の口腔ケアが大切。
- 末梢の点滴（ビーフリード）1本のエネルギーは、おにぎり1個と500mlのお茶と同じであるため、経口摂取をすすめていきましょう。

多職種にも分かりやすく、食べることの大切さや翌日から使える観察ポイントなど、とても興味深い内容でした。病棟ですぐに活用したいと思えます。



外科医長 鈴木崇久先生



兼栄養室長

繁田副院長

外来医師専門領域一覧表の訂正について

5月号連携だよりに記載しました外来医師専門領域一覧表に一部不備がありましたので、訂正いたします。

誤 2021. 5. 1現在



正 2022. 5. 1現在

乳がんサロンのご案内

日時 2022年 **6月14日 (火)** 14:00~15:00

場所 外来棟4階 地域医療研修センター 第1・2

演題 「乳がん治療医として気にかけていただきたいこと」

演者 乳腺外科医師 小林 美恵

当科では乳腺良性腫瘍から乳がんまで全範囲の乳腺疾患に対して診療しています。今回のサロンでは検査、治療の方法や治療を行っていくうえで気にかけていただきたいことなども含めて幅広くお話しいたします。

治療の目的は、治療を受けられるご本人、ご家族が望まれる生活を送れることです。そのためには病状のご理解、日々をどのように過ごしていきたいかを医療者にお伝えしていただき、一緒に相談して治療内容を決めていくこと（意思決定：decision-making）が重要となります。治療、意思決定の中心は、ご本人・ご家族であり、当院では多職種の医療従事者でチーム医療として皆さまをサポートしております。呉地域の皆さまが安心して治療をお受けになられ、望まれる生活を送れますように、当院スタッフでしっかり乳腺診療を行ってまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

がんサロンのご案内

日時 2022年 **6月16日 (木)** 14:00~15:00

場所 外来棟4階 地域医療研修センター 第1・2

演題 「胃のおはなし」

演者 外科医長 鈴木 崇久

オストメイトサロンのご案内

日時 2022年 **6月23日 (木)** 14:00~15:00

場所 外来棟4階 地域医療研修センター 第1・2

演題 「災害時の備えについて」

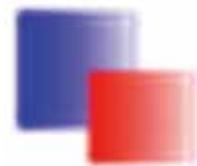
演者 皮膚排泄ケア認定看護師 榎 智子

上記、患者サロンについては、新型コロナウイルス感染状況によって急遽、開催中止となる場合がありますので、ご了承ください。

救急外来へのご紹介について

救急車で搬送する患者さんのご紹介は、救命救急センター医師が症状等を直接お伺いさせていただきますので、「救急外来受付」まで電話でご連絡いただきますようお願い申し上げます。

平日 昼間 8:30~17:15 ☎0823-22-3111
土・日および夜間 17:15~8:30 ☎0823-23-1020



関節リウマチについて



日時 2022年6月15日(水) 19:00~20:00

場所 呉医療センター
管理棟4階 地域医療研修センター第1・2

- **座長** 呉医療センター
副院長
高野 弘嗣
- **講師** 呉医療センター
リウマチ・膠原病科科長
徳永 忠浩



関節リウマチは、代表的な全身性自己免疫性疾患の一つであり、関節の滑膜炎により骨・軟骨の破壊が引き起こされて関節変形・生活機能低下をきたします。これまで“身近な難病”と呼ばれてきましたが、1990年代以降の治療薬の革新的進歩により、多くの患者が“寛解”を達成できるまでに治療成績は改善しました。近年劇的な変化を遂げた関節リウマチ診療について講演させていただきます。

新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては、講演を中止させていただきますこととありますので、ご了承くださいませよう願いたします。

連絡先 〒737-0023 呉市青山町3番1号
国立病院機構呉医療センター 管理課
TEL (0823) 22-3111 ホームページ：<http://kure.hosp.go.jp/>



6月の時間外 研修会／勉強会



【連絡先】

独立行政法人国立病院機構 呉医療センター 管理課 庶務係（教育企画課）
 広島県東広島市山町3番1号 / TEL.0863-22-3111 / 本-A* -F* : https://aure.hosp.go.jp/



研修会名	日 時	場 所	講 師 ※敬称略	担当部署	院外	対象職種
院内BLSコース	6月3日 (金) 17:30～18:30	技術研修センター	呉医療センター 院内BLSチーム	院内BLS チーム	院 内 向 け	医師・看護師
地域医療研修センター定期講演会 「関節リウマチについて」	6月15日 (水) 19:00～20:00	地域研修センター1・2	呉医療センター リウマチ膠原病科科長 徳永 忠浩	管理課	○	全職種
医療機器安全使用に関する研修会 補助循環装置「IABPについて」	6月21日 (火) 17:30～18:30	11Fカンファレンス室	呉医療センター ME管理室 村高 拓央	ME管理室	院 内 向 け	全職種
第2回 TCSA勉強会 「重症敗血症における栄養管理」 「PEG造設方法について」	6月27日 (月) 18:00～19:30	地域研修センター1・2	呉医療センター 救命救急センター部長 岩崎 泰昌 消化器内科医師 菅田 修平	栄養管理室	院 内 向 け	全職種
消化器合同オープンカンファレンス 肝・胆・膵及び上部消化管を対象疾患とし、 画像診断から手術・病理診断まで担当各科で検討	7月6日 (水) 18:00～	地域研修センター1・2	呉医療センター 消化器内科 外科 放射線診断科 病理診断科	消化器外科	○	全職種



自己研鑽で専門性を高めましょう!!
 新型コロナウイルス感染症の発生状況によっては
 講演を中止させていただくことがありますので
 ご了承くださいませようお願いします。



〒737-0023 広島県呉市青山町3-1
独立行政法人 国立病院機構
呉医療センター・中国がんセンター

地域医療連携室

高野 弘嗣 河野 博孝

竹中 恵子 折本 陽一

片山 千雪

TEL: (0823) 22-3816